

語と意味 (2)

——日本語とフランス語の意味上の対応関係——

柿 山 隆

1. 本誌23号で「いっぱい」「いつも」「今の」「(～の) 上から」「演奏する」「教える」「おもしろい」を *champ sémantique* (意味場), *contenu sémantique* (意味内容) の点から分析を試みフランス語のどのような語彙ないしは表現に対応するか探ってみた。

今回は「終る」「替える」「変える」「帰る」「貸す」「借りる」「刈る」「元来」「聞く」の各語について意味上の分析を試み、そしてそれがフランス語ではどのような表現又は語彙で表わされ得るか検討してみることにする。

2. 1 「終る」

finir [se terminer, s'achever, avoir pour terme, avoir pour fin]/

finir [terminer, achever]

「すべて首尾よく終るだろう。」「私はすぐ終ります。」「私は今晚にはこの宿題を終ら¹⁾なければならない。」「君、食べ終ったかい？」上の四つの日本語の文例の「終る」はいずれも「続いていたものがなくなる」こと「ある動作・作用が完結する²⁾」ことを意味する。文法的機能の点から見ると「すべて首尾よく終るだろう。」「私はすぐ終ります。」の「終る」は目的語を伴わない自動詞的用法であり、「君、食べ終ったかい?」「私は今晚にはこの宿題を終らなければならない。」の「終る」は目的語が動詞、名詞の違いはあるにしても他動詞的用法である。更に、自動詞的用法の「終る」の文例、「すべて首尾よく終るだろう。」「私はすぐ終ります。」の文法機能上の更に細かい相違は、前者の文例の主語が「物・事柄」であり、後者の

文例の主語は「人」であるということだ。日本語の段階で見ると限りにおいてはこのことはさほど問題は感じないがフランス語においては主語が「人」であるか或いは「物・事柄」であるかによって時として用いられる動詞が異なることもあり得るので *syntaxe* (統辞論) 上大切なことである。

つまり、主語が「物・事柄」である場合、*structure syntaxique* (統辞論的構造) は SN (物・事柄) + finir [⁴⁾ *se terminer, s'achever, avoir pour terme, avoir pour fin*] となり、主語が「人」である場合、SN (人) + finir [⁵⁾ *terminer*] となる。従って、「すべて首尾よく終るだろう。」はフランス語では *Tout finira [se terminera, s'achèvera, aura pour terme, aura pour fin] bien.* と言えるし、「私はすぐ終わります。」は *Je finis [termine] à l'instant.* と言える。ここで明らかになることは、主語が「人」であっても「物・事柄」であっても、共通して使われる動詞は *finir* に限られ他は異った動詞が用いられるということである。

他動詞的用法の「終る」の文例、「私は tonight にはこの宿題を終らなければならない。」「君、食べ終わったかい？」からも分るように他動詞的用法の「終る」の主語は常に人であり目的語は物・事柄である。フランス語での *structure syntaxique* (統辞論的構造) は SN (人) + finir [⁶⁾ *terminer, achever* (あらたまって)] + SN (物) となる。従って、「私は tonight にはこの宿題を終らなければならない。」⇒ *Je dois finir [terminer, achever] ce devoir pour ce soir.* 「君、食べ終わったか？」⇒ *As-tu fini [terminé, achevé] de manger?* と表現できる。

2. 2 「替える」

changer/changer de

「マリー、テーブルクロスを替えてくれない?」「私は車を替えた。」の二つの例文の「替える」は同じ性質・機能をもった別のものと取りかえることを意味する。日本語の例文で見ると限り上の例文中の二つの「替える」

には意味的にも *syntaxe* (統辞論) 的にも差異は見られないようだ。ところがフランス語においては、“Marie, vou-tu changer la nappe?” (マリ-、テーブルクロス替えてくれない?) ⁸⁾ J’ai changé de voiture. (私は車を替えた。) のように *changer*+SN/*changer de*+名詞, の二つの *structure* (構造) が現われてくる。この違いはどう説明できるだろうか?

まず言えることは、“Pierre a changé sa voiture pour une nouvelle.” (ピエールは車を新しいのに替えた。) ¹⁰⁾ “Il veut changer son appartement en banlieue contre un studio situé au centre de Paris.” (彼は郊外のアパートマンとパリの都心部にあるステュディオを替えたいと思っている。) ¹¹⁾ のように、代替物が具体的に出て来る場合は *pour* 又は *contre* を介して代替物が表現され、*changer*+SN+*pour* (*contre*)+SN の *structure* (構造) となる。代替物が具体的に出て来ない *changer*+SN, の *structure* (構造) は *changer*+SN+*pour* (*contre*)+SN, を *structure profonde* (深層構造) とする *Structure de surface* (表面構造) と考えられないだろうか? *Contexte* (文脈) が明らかなる場合は後者は前者の *elliptique* (省略) 的用法ととれないだろうか?

他方、身につけるものに関しては同じ性質の他のものと取りかえる場合は *changer de*+名詞, の *structure* (構造) をとる。従って “Change de robe, tu ne peux pas le recevoir comme ça.” (ドレスを替えなさい。そんな格好じゃ彼をお通し出来ませんよ。) ¹³⁾ と言う。

changer+SN/*changer de*+名詞, の *structure* (構造) の対立について ¹⁴⁾ *Trésor* は次のように書いている。“Dans l’opposition changer de rythme, changer de manière et changer son rythme, changer sa manière li faut voir que dans le premier cas l’objet n’est pas déterminé, l’accent est mis sur le changement alors que dans le second cas l’objet est déterminé, l’accent est mis sur l’objet que l’on change.” 通貨の両替えに関しては *changer*+SN (通貨の単位)+*en*+名詞 (通貨の単位) となる。それ故、¹⁵⁾ “J’ai changé mes dollars en francs français.” (ドルをフランス・フランに

替えた。¹⁶⁾ という。

2. 3 「変える」

changer [modifier] / changer de / changer ~ de ~ / changer
[transformer] ~ en ~

「この言葉を付け加えたら、文章全体の意味を変えてしまいますよ。」
「彼は国籍を変えたがっている。」上の例文の「変える」は「物事の状態や
質を前と別のものにする」¹⁷⁾ことであろう。日本語の段階では上の例文のそ
れぞれの「変える」違いは一見感じられない。所がフランス語において
は「物事の状態や質を前と別のものにする」ことを表現するのに changer
[modifier]+SN (物)/changer de+¹⁸⁾名詞、の二つの structure (構造)がある。
事実、辞典の中に、“Si vous ajoutez ce mot, vous changez le sens de toute
la phrase.” (この言葉を付け加えたら、文章全体の意味を変えてしまいま
すよ。¹⁹⁾“Il va falloir changer notre train de vie.” (我々の暮らし方を変えな
くてはね。²⁰⁾“Il veut changer de nationalité.” (彼は国籍を変えたがって
る。²¹⁾“Tiens, tu as changé de coiffure?” (あら、髪型を変えたの?²²⁾) などの
例文を見ることができる。changer+SN (物)/changer de+名詞、の構
造上の対立は contenu sémantique (意味内容) の対立に対応しないだろう
か? 「意味を変える」/「暮らし方を変える」/「国籍を変える」/「髪型を変える」
を「変る」主体の方から見ると changer+SN (物) はそれが変ればそのも
のでなくなる本質的要素を「変える」こととは考えられないだろうか? そ
れに反して changer de+名詞、はそれが変わってもそのものであり続ける
属性的要素を「変える」ことではなからうか? structure (構造) 上は異
にするが “Tiens, vous avez changé votre sofa de place!” (あら、ソファー
の位置をお変えになったの!)²³⁾ は意味的には後者に類するものだろう。又、
“On n’a pas encore trouvé comment changer les métaux en or.” (金属
を金に変える方法は今だに見つかっていない。²⁴⁾) のような、changer+SN+
en+名詞、の structure (構造) の changer は反対に前者の類であろう。

ただこの structure (構造) では changer の synonyme (同義語) として transformer が可能²⁵⁾になってくる。

2. 4 「帰る」

rentrer [revenir]/rentrer [retourner]

場所的意味に於ける「帰る」の定義として日本語の辞典には「もとの場所や持主にもどる²⁶⁾」「もとの所にもどる²⁷⁾」「自分の家、故郷や元居た場所にもどる²⁸⁾」などとある。このことから「帰る」の synonyme (同義語) として「もどる」が浮び上ってくる。

日本語では、例えば、「彼女たちはくたくたになって東京に帰った。」の場合、sujet parlant (話し手) が「帰る」先の東京に居るか居ないかは分からない。いずれの場合もあり得るだろう。従って sujet parlant (話し手) が東京にいる場合には、「彼女たちはくたくたになって東京に帰って来た。」と言いかえることができるだろうし、又 sujet parlant (話し手) が東京に居ない場合には、「彼女たちはくたくたになって東京に帰って行った。」とも言えるだろう。即ち、「帰る」は sujet parlant (話し手) の居場所を問わず「帰って来る」と「帰って行く」の二つの意味で用いられることになる。

類似した現象がフランス語にも見られる。例えば、“Elles rentrées²⁹⁾ à Tokyo très fatiguées.” (彼女たちはくたくたになって東京に帰った。) の場合、rentrer は sujet parlant (話し手) がどこに居るかは明示しない。sujet parlant (話し手) が東京に居ることを明示するのは revenir であり、“Elles revenues³⁰⁾ à Tokyo très fatiguées.” (日本語訳同上) と言う。sujet parlant (話し手) が東京以外の場所にいる場合には retourner が用いられて “Elles retournées à Tokyo très fatiguées.” (日本語訳同上)³¹⁾ と言う。つまり、revenir は sujet parlant (話し手) のいる場所に「帰る」場合のみに用いられ、他の場合には retourner で表現される。もちろん、rentrer はいずれの場合をも表現する。

retourner それ自体は *sujet parlant* (話し手) がどこにいるかによってその使い方が左右されるわけではない。retourner の場合はむしろ「帰る」主体のもどる場所が問題となる。原則的には「帰る」主体はもどるべき場所には居ない。例えば、“Il retourne tous les soirs chez lui très fatigué”. (彼は毎晩大変疲れて家に³²⁾帰る。) “Quand est-ce que tu retournes au travail?” (いつから仕事に³³⁾戻れるんだい?) のように「帰る」主体の日常生活の中心になる場所 (自宅, 職場, etc), “Retournons à notre hôtel, veux-tu?” (ホテルに³⁴⁾戻ろうよ, ね。) のように一時的に生活の中心になっている所 (ホテルなど), “Est-ce que vous avez l'intention de retourner dans votre village?” (あなたは故郷の村に³⁵⁾帰るつもりですか?) “Les Fernand sont retournés en France avec l'intention de ne plus jamais revenir au Japon.” (フェラン夫妻はもう再び日本には来ないつもりでフランスに³⁶⁾帰って行った。) のようにかつて居た所 (祖国, 故郷, etc) に「帰る」意味で *retourner* が用いられる。

要するに, *sujet parlant* (話し手) のいる場所に「帰る」場合は *revenir* で表現し, 「帰る」動作主がその日常の生活活動の場或は元居た所に他所からもどる場合は *retourner* で表わす。そして, いずれの場合にも *rentrer* を用いることができる。

2. 5 「貸す」

prêter/louer

日本語「貸す」の *champ sémantique* (意味場) の拡がりには主として三つの場が考えられる。一つは「車を³⁷⁾貸す」「部屋を³⁷⁾貸す」のように所有権の移行を伴うことなく金品, 場所を一時的に他人の使用に供することであり後で所有者に返却することを前提とする。他は「大夫様は……今朝からの頼みでちょっとこの筑後屋へ³⁷⁾貸さねばならぬ。」のように遊里語としてある客の相手をしている遊女を他の客に回すことである。日常語で言う「今晚御主人をお³⁷⁾貸し下さい。」などはそれからの転用であろう。最後には

「私に力を貸して下さい」のように労力、能力、時間などを提供することを言う。

ここでは所有権の移行なくして金品、場所を一時的に他人の使用に供する意味での「貸す」を検討してみることにしよう。金品、場所を「貸す」のに二つの状況が考えられる。一つは無償で「貸す」ことであり他は金を取って「貸す」ことである。友人が自分の家に遊びに来ていて、「雨が降っていたので、かれに傘を貸してあげた。」と言う場合は常識的には無償で「貸す」だろう。フランス語では、“Comme il pleuvait, je lui ai prêté mon parapluie.”（雨が降っていたのでかれに傘を貸してあげた。）のように無償で「貸す」意味では *prêter* という。又、大家がアパートか部屋を「貸す」場合普通はお金を取るだろう。例えば部屋を探している人が仲介の不動産屋のところに行って “Avez-vous encore des chambre à louer ?”（まだ空いている貸し部屋がありますか？）³⁹⁾ と言える。即ち *louer* が用いられるのである。従って物・場所に関する限り、フランス語では「貸す」については無償/有償の対立は *prêter/louer* の対立で区別されると言えよう。

所がお金を「貸す」場合は多少事情を異にする。たまたまお金の持ち合わせがなくして友だちに “Je n'ai pas un sou sur moi: est-ce que tu pourrais me prêter cent francs? Je te les rendrai demain.”（金の持ち合わせが全然ないんだ。100フラン貸してくれないか？ あした返すから。）⁴⁰⁾ と言う。この場合なにがしかの利息を取って「貸す」ことは常識的には考えられない。利息を取ってお金を「貸す」場合も，“La banque m'a prêté cette somme d'argent à l'intérêt de 6%.”（銀行はその金額を6分の利息で貸してくれた。）のように *prêter à l'intérêt* と言う。ここで見る限りお金を「貸す」場合 *prêter* それ自体には有償で「貸す」意味は含まないが利息とか担保などの補足的な表現を添えて用いることによって有償的ニュアンスで「貸す」意味で使われると言えそうだ。上述したように物・場所を有償で「貸す」には *louer* が用いられるが金銭を「貸す」ことには *louer* は使

われないようだ。それ故、*⁴²⁾ “Mon ami m’a loué l’argent qu’il me fallait.” (友人が必要な金を貸してくれた。)とは言わないだろう。要するに日本語「貸す」に対応するフランス語には *prêter, louer* がある。物・場所に関しては無償で「貸す」は *prêter* であり、お金をとって「貸す」は *louer* である。金銭を「貸す」は利息等の有無にかかわらず *prêter* である。

2. 6 「借りる」

emprunter/louer

「借りる」は上の「貸す」とは大体反対の意味を含む語である。その *champ sémantique* (意味場) には主として三つの *contenu sémantique* (意味内容) が考えられる。一つは「部屋を借りる」のように他人のものを一時的に自分のために使うことを意味し、二には「力を借りる」のように他の援助や協力を受けることを意味し、最後は「彼の言葉を借りて言えば……」「この場を借りて……」⁴³⁾ などのように比喩的に用いることがある。

ここでは人のものを一時的に自分のために使う意味の「借りる」を検討してみることにする。「貸す」場合と同じく「借りる」場合も日常生活においては無償で「借りる」こともあろうし賃借することもあるだろう。無償で「借りる」フランス語の対応語は *emprunter* である。こうして「彼は私に本を借りたまままだ返していない。」は “Il m’a emprunté un livre et il ne me l’a pas encore rendu.”⁴⁴⁾ と言う。上述した通り賃貸の対応語は *louer* であったが賃借の対応語も *louer* で、“J’ai loué un logement dans le 8^e.”⁴⁵⁾ (私は8区に部屋を借りた。) と言う。つまり *louer* は賃貸の「貸す」の場合も賃借の「借りる」の場合も共に用いられ同一語で *champ sémantique* (意味場) に正反対の二つの *contenu sémantique* (意味内容) をもつ珍しいケースである。金銭を「借りる」ことは “Je lui ai emprunté 500 francs la semaine dernière.” (先週彼に500フラン借りた。)⁴⁶⁾ のように利息等の有無にかかわらず *emprunter* で表現される。これは「貸す」場合の *prêter* と同じである。

2. 7 「刈る」

faucher / tailler / tondre

日本語「刈る」から連想される意味は密生しているものを切ることであろう。そこでは切る対象とか切る長さの程度は限定されていない。フランス語では類似した *contenu sémantique* (意味内容) を表わすのに *faucher/tailler/tondre* の三語があるがそれぞれに切る対象と程度に相違が見られるようである。

faucher (刈る, 刈り取る) は *morphologie* (語形論) から見れば *faux* (長柄の鎌) の *mot dérivé* (派生語) であり, “*Quatorze moissonneurs ... fauchaient des seigles.*” (14 人の刈取り人がライ麦を刈っていた。⁴⁷⁾) のように *faucher* の対象物は *faux* (長柄の鎌) で「刈る」もの即ち, 麦などの農作物, 草などである。更に “*Les paysans fauchent les prés.*” (農夫たちが牧場を刈っている。⁴⁸⁾) のように *faucher* の対象物は麦・草などの生えてあつたりする畑・土地にも拡がって行く。

“*Les Japonais savent bien tailler les arbres.*” (日本人は木を刈るのが大変上手だ。⁴⁹⁾) “*Qui va tailler la haie cette année?*” (今年誰が垣根を刈るのですか?) のように *tailler* は樹木とか垣根とかを「一定の長さに刈りそろえる」ことを意味する。他方, “*Ses cheveux roux, tondu de près, accusaient le volume anormal du crâne.*” (彼の赤い髪が短かく刈られて異常な頭の形が際立って思えた。⁵⁰⁾) “*Dimanche dernier, on a tondu le gazon.*” (この前の日曜日芝生を刈った。⁵¹⁾) “*Elle a fait tondre son caniche.*” (彼女は自分のむく犬の毛を刈ってもらった。⁵²⁾) のように *tondre* は本来的には「短く生え際すれすれに刈る」ことを意味する。*tailler* と *tondre* の意味上の相違は *tailler* が「刈りそろえる」ことに力点がおかれているのに対し, *tondre* はむしろ「短く刈りこむ」ことに力点があると考えられることができるだろう。

所が *tailler* も *tondre* も対象物として *haie* (垣根) を取り得る。例えば, “*Qui va tailler la haie?*” (誰が垣根を刈りますか?) 或いは “*Qui va tondre*

la haie?”（日本語訳同上）とすることができるだろう。この二文中の tailler と tondre の間に意味上の差異を見ることができるだろうか？ DFC⁵⁴⁾には “tondre une haie” を “la tailler en l'égalisant” と定義している。印象的には haie（垣根）を対象物とする “tailler une haie” と “tondre une haie” の二つの structure（構造）に於ける tailler と tondre は synonyme（同義語）と見ることができると思われる。

2. 8 「元来」

à l'origine [au début, primitivement, originairement / dès l'origine
[dès le début, dès le commencement, depuis toujours]/de(par)nature

日本語の辞典で見る限り「元来」の champ sémantique（意味場）には一つの contenu sémantique（意味内容）しかないように見える。例えば「元来」の定義には「以前からその状態であることを表わす。もともと。はじめから。」⁵⁵⁾「元より。はじめから。」⁵⁶⁾「その状態が今になって始まったのではない意を表わす。『元来（＝もとから）の正直者』」⁵⁷⁾などがある。この意味での「元来」は「元来そんなことは私には関係ないことだ。」の「元来」と同じ意味であろう。この意味ではフランス語の dès l'origine [dès le début, dès le commencement, depuis toujours]⁵⁸⁾ に対応するだろう。従ってフランス語では “Dès l'origine, cela ne me regarde pas.”（元来そんなことは私には関係ないことだ。）と言えるだろう。

所で実際の言語現象では「元来」の champ sémantique（意味場）はもっと広いようだ。例えば、「今は私がしていますが元来それはデュポンさんの仕事だった。」「元来人間は社会的存在だ。」の二つの文例に見られる「元来」の用法には日本語としての不自然さは感じられない。他方ここでの「元来」は最初にあげた日本語の辞典による「はじめから」の意味では文脈が通じないようにも思える。

「今は私がしていますが元来それはデュポンさんの仕事だった。」の「元来」はむしろ「もとは。はじめは」の意味あいが強いようだ。この意味で

の「元来」は à l'origine [au début, primitivement, originairement]⁵⁹⁾ のフランス語に対応するだろう。それ故「今は私がしていますが元来はそれはデュポンさんの仕事だった。」はフランス語では “Maintenant je m'occupe de cette affaire, mais pourtant à l'origine c'était l'affaire de M. Dupont.” と言えるだろう。

「人間は元来社会的存在である。」の「元来」は「はじめから」の意味でもなく「はじめは」の意味でもなくむしろ「生来」の意味だろう。「生来」のフランス語での対応語は de nature [par nature]⁶⁰⁾ である。「人間は元来社会的存在である。」はフランス語では “L'homme est de nature un être social.” と表現できるだろう。

3. 「終る」には自動詞的用法と他動詞的用法がある。自動詞的用法の場合にはフランス語においては主語が「人」であるか「物・事柄」によって用いられる動詞に相異が出て来る。主語が「人」の場合は、SN (人)+finir [terminer] となり、主語が「物・事柄」の場合には、SN (物・事柄)+finir [se terminer, s'achever, avoir pour terme, avoir pour fin] となる。他動詞的用法の場合には主語は必然的に「人」であり、SN (人)+finir [terminer, achever (あらたまって)]+SN (物) となる。

「替える」はフランス語では二通りの表現、changer+SN/changer de+名詞、が可能である。syntaxe (統辭論) の中に pour (contre) を介して代替物が出てくる場合は changer+SN+pour (contre)+SN となり、具体的に代替物が出て来なくても言外に含まれる場合も changer+SN, となるようである。身につけるものについては changer de+名詞, となる。更に changer sa manière/changer de manière のようにその相違が微妙な場合もある。

「変える」に相当するフランス語の表現には、changer [modifier]/changer de/changer ~ de ~/changer [transfamer] ~ en ~, の四つの表現があるが本質的には changer [modifier]+SN/changer de+名詞, の二つの表現に

還元できるだろう。本質的要素を「変える」場合には *changer* [transformer] が用いられ、属性的要素を「変える」場合には *changer de*+名詞、が用いられるようである。

「帰る」にはフランス語では *rentrer* [revenir]/*rentrer* [retourner], があるがその使い方には二つの基準がある。一つは *sujet parlant* (話し手) の居場所であり他は「帰る」主体の「帰る」場所の性質である。*sujet parlant* (話し手) のいるところに「帰る」場合には *rentrer* [revenir] が用いられ、「帰る」主体が日常生活の場所、元の居場所に「帰る」ときには *rentrer* [retourner] が用いられる。

物に関する限り無償で「貸す」ためには *prêter* が用いられ、有償で「貸す」のには *louer* が用いられる。

「借りる」についても「貸す」と同じくフランス語では有償か無償かで表現の違いがでてくる。即ち、物について有償で「借りる」場合は *louer* が用いられ、無償で「借りる」場合は *emprunter* が用いられる。

農作物、草或はそれが生えている場所を「刈る」場合は *faucher* が用いられ、草木を一定の形に刈りそろえる意味での「刈る」場合は *tailler* が用いられ、髪、草など生え際すれすれに「刈る」意味では *tondre* が用いられる。但し、垣根については *tailler*, *tondre* の混用が見られる。

日本語「元来」には「はじめから」「はじめは」「生来」の三つの意味が考えられる。フランス語では「はじめから」の意味では *dès l'origine* [dès le début, dès le commencement, depuis toujours] が用いられ、「はじめは」の意味では *à l'origine* [au début, primitivement, originairement] が用いられ、「生来」の意味では *de (par) nature* が用いられる。

注

- 1) 「終える」の俗語的表現 (新明解国語辞典)
- 2) 日本国語大辞典 3) Ibid
- 4) [] は前出の語の *synonyme* (同義語) であることを示す。
- 5) 現代フランス機能語辞典, 現代フランス類語辞典参照
- 6) Ibid. 7) Ibid.

- 8) 現代フランス類語辞典
- 9) D. F. C. (Dictionnaire du français contemporain)
- 10) D. F. C. 参照
- 11) Dictionnaire du bon français
- 12) Encyclopédie du bon français.
- 13) 現代フランス類語辞典
- 14) Trésor de la langue française
- 15) 現代フランス類語辞典 16) Ibid.
- 17) 日本国語大辞典
- 18) 現代フランス類語辞典 19) Ibid. 20) Ibid. 21) Ibid.
- 22) Ibid. 23) Ibid. 24) Ibid.
- 25) 現代フランス類語辞典参照
- 26) 日本国語大辞典
- 27) 広辞苑
- 28) 新明解国語辞典
- 29) 現代フランス類語辞典参照 30) Ibid. 31) Ibid.
- 32) クラウン仏和辞典
- 33) 現代フランス類語辞典 34) Ibid. 35) Ibid. 36) Ibid.
- 37) 日本国語大辞典
- 38) 現代フランス類語辞典 38) Ibid
- 40) Dictionnaire du français, langue étrangère, niveau 2
- 41) 仏和大辞典参照
- 42) *印はその文が syntaxe (統辞論) 上正しくないことを示す。
- 43) 日本国語大辞典
- 44) 現代フランス類語辞典 45) Ibid. 46) Ibid.
- 47) Trésor de la langue française
- 48) D. F. C.
- 49) 現代フランス類語辞典
- 50) Grand Larousse
- 51) D. F. C. 参照 52) Ibid.
- 53) D. F. C., 現代フランス類語辞典参照
- 54) 日本国語大辞典
- 55) 広辞苑
- 56) 新明解国語辞典参照
- 57) D. F. C. 参照
- 58) Dictionnaire du français, langue étrangère, niveau 2 参照

59) Grand Larousse

参考文献

- Klincksiech, Trésor de la langue française
- Larousse, Grand Larousse
- Dupré, Encyclopédie du bon français, Editions de Trévisé
- J. Girodet, Logas, Bordas
- Larousse, Dictionnaire du français contemporain.
- J. Girodet, Dictionnaire du bon français, Bordas
- Larousse, Dictionnaire du français, langue étrangère, Niveau 2.
- 伊吹武彦他, 仏和大辞典, 白水社
- 大槻鉄男他, クラウン仏和辞典, 三省堂
- P. リーチ, C. ロベルジュ他, 現代フランス語法辞典, 大修館書店
- P. リーチ, C. ロベルジュ他, 現代フランス類語辞典, 大修館書店
- 小学館, 日本国語大辞典
- 新村出, 広辞苑, 岩波書店
- 金田一京助他, 新明解国語辞典, 三省堂